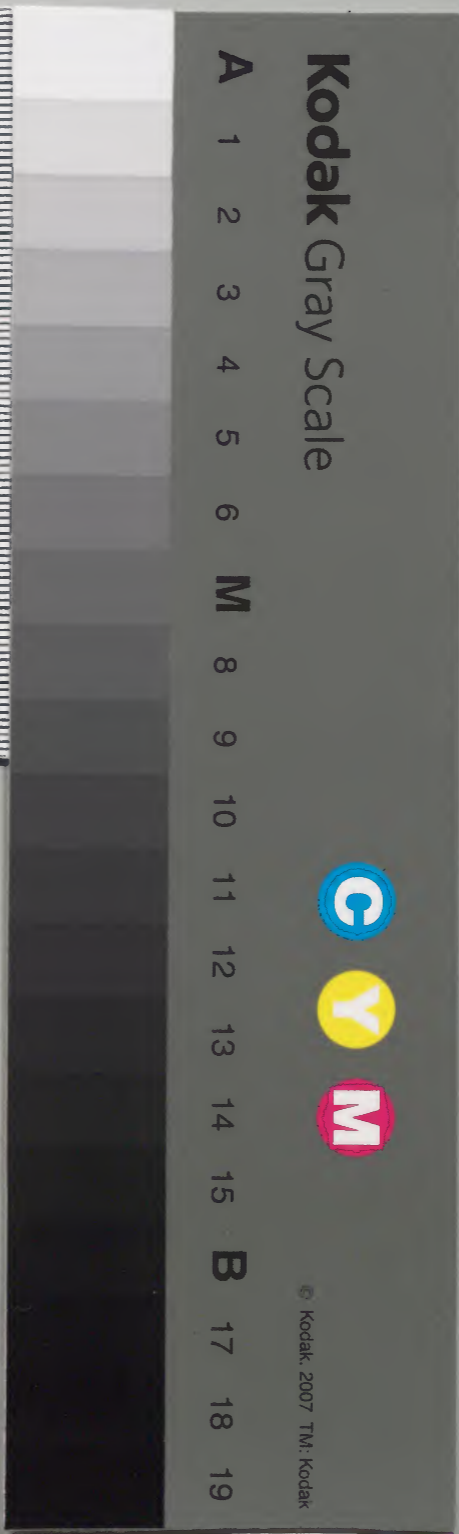
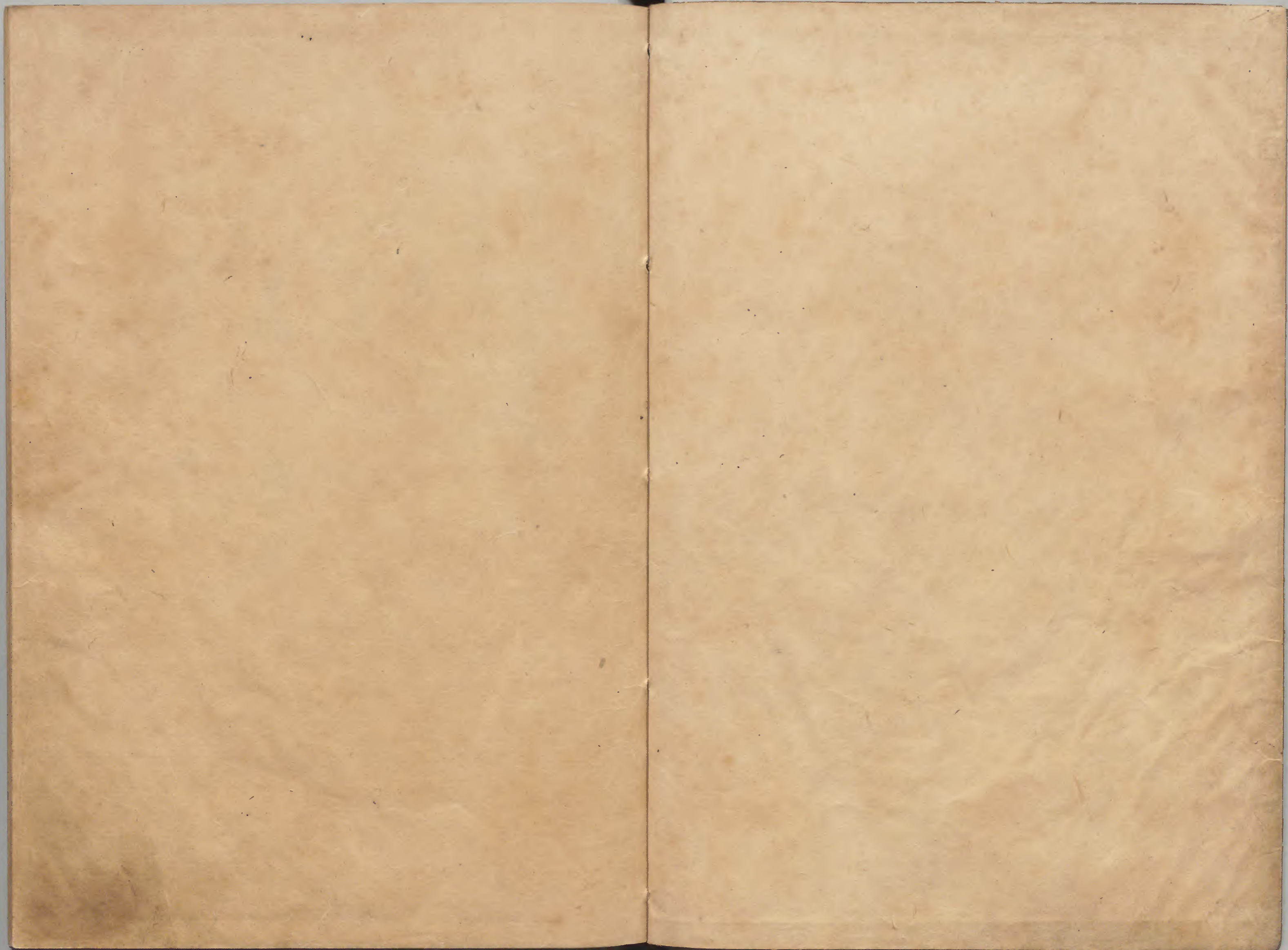


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
良文流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186(71)
函號	特 76 1





相馬

新以系

某村

長多見

寛永詔家系馬傳

平氏

良文流

相馬

淺草文庫

高望王

上総介

平姓を存せしむ

良将

鎮守府將軍

良文

鎮守府將軍

村長之助 後之佐

将門

おろ小次郎

自平親王

之頼

陰奥人

村長次郎

良文乃子将門乃

之常

藤上総介

千代乃祖

子將

小治政 子兼 後之佐下

子兼

子兼大吏 下総介 元永以後南房探非遠使補

子重

子兼 後之佐下探非遠使と同

子胤

子兼 母平政轉が女 源頼朝乃如く教度軍功ありて 下総國の守護職に補せられ 治承元年九月お探乃國府より 頼朝よりめく勲功乃賞より 元暦元年平家退討のとき高後

相馬之師 支那と領土事
元久二年十一月五日六十七歳
小く死す

義胤

相馬之師 支那と領土事
又少相馬
源實朝 勅信

胤綱

次郎左衛門尉 支那と領土事
又少相馬
義頼 守相軍相領土事
信守

胤村

左衛門尉 支那と領土事

いづか
將軍頼朝とていづか
正嘉二年春
乃とていづか

昨亂

小字杉原丸
支那とていづか

同日

張

文永九年正月二十九日
知新とていづか
平朝長政村とていづか

重胤

孫の所
支那とていづか

同二年七月十七日新方郡に
安堵お遣なり
官有
同二年七月廿一日高時法印
類乃外具別苗知新乃軍相違
あり一〜〜〜大納言
物良玄房 宣旨とつけり
辨官の下文あり
建武二年六月三日具別符候

同二年七月十七日新方郡に
安堵お遣なり
官有
同二年七月廿一日高時法印
類乃外具別苗知新乃軍相違
あり一〜〜〜大納言
物良玄房 宣旨とつけり
辨官の下文あり
建武二年六月三日具別符候

具直理字右新方全原保郡等
換り候一福せら〜〜國宣
あり同二年三月尾張赤松之師團
新方郡と謀成の〜〜具別一發
向の〜〜直理河名高〜〜を
兼含一〜〜一〜〜
一〜〜〜戦切河
同二年軍將新方組下小原
同東一〜〜進發一〜〜戦也

をいふ事

同年奥州乃内高城保郡所

勢すしこの旨将軍是利吉氏

斗位らるるなり判事

同年前代蜂起の事討

軍切あり

同比國司歌邊下向の時軍將

隆奥専家長治一居一福余

一おひく合戦と云ふ事

法華堂乃下あり自給と云

なりらるる名とありと云

大よめと云ふあり道号天授

親胤

孫少郎 本羽指守

前國司の少らき奥州海道守

乃守後一福と

遠氏二子箱根坂水音と云

合戦の事 我切といふ事 台良
大京更身象傳の旨 起渡
と善法に本旨 大物といふ事
同年 子田大陽守おやのふり 奈此
城よりしるし 合戦をいふ事
將軍 尊氏 城よりしるし
侍 尊氏 京都よりしるし
軍史といふ事
同ら 正月 十一月 廿二日 相馬郡 一揆

不領乃 治之 箇村 將軍 尊氏 した
まゝ 一 判 形 あり
同 字 子 二月 廿一日 軍 將 石 尊 氏 人
組 下 一 房 一 寺 別 開 乃 城 一
進 後 とも 一 河 上 の 形 一
渡 中 浪 渡 戸 乃 歌 數 百 騎 追 及
一 數 百 騎 を 燒 拂 一 先 鋒 一 切 一
い づ ち 時 一 乃 大 乃 梶 原 一 一 郎
左 衛 門 尉 一 一 乃 梶 原 一 一 郎

貞和二年伊達郡有田靈山田村
宇津次子城乃西後等を越後の
しめつ族と率く馳向軍初と
そのし大系大吏貞母起請文と
さう流仁木若幼大福し
正平六年交方し軍初と抽し
さ乃旨少納之勅をうけし後
是と執行
同七年吾野津合戦し

野心を揚し軍市東は退治す
このし相軍乃氏より号令
せらるるのみとき歌信の奥方小
とひく將軍乃與黨と退治せん
とくまのまのあしを
急し乃取郡し
軍初とぬし
なまを修治し
同二年二月歌信以下此西後田村

同二年七月より宮國司よりび歌信卿
陰奥お羽間と没落乃りきこ
是と搦捕率ありて忠賞なり
こりりまうらるる此旨号令
屋の秋あり
同日手六月十百文あり
べい乃旨大納言執をうけ
しあれと執行
貞治二年九月十百羽列の卜大
貞

乃内漆山門田飯澤等
知
大者
道号月洞
法名
乃内漆山門田飯澤等
知
大者
道号月洞
法名

之胤

流沙郎 重胤が次男
父重胤軍將新波組下
編余

建武二年二月十日新波より
重胤書を抄方よりとりて
款射すとの事とくく追伐と
一 且小高村よりとく城郷と
接べしとありとの處
乃款館を攻く山境を追治し且
小高の城とす
同日二十二日廣橋修理亮經泰敷子
騎と率小高乃城に馳來防戦

より同日二十日款追伐と
同日二十七日標系郡よりとく
合戦ことより款多討指所大
泉平九郎是と換と
同日二十日白川と野入道様
より右の庄熊野堂より指所時
光胤奥州海道乃軍乃式於と捕
首斬絶下り居しとく
と款をり敗と

あ初を領する事、
是より下小高城、
建武三年、
お侍乃下総國おる郡、
書と伯父孫、
ゆそり、
ゆき自然と、
居し海陽、
うら死と、

あく相鶴を号す小高城は乃、
はら一様郎、
いづるま、
山林、
中村、
代郡、
小指、
をい、
より、

山後と攻りていふに山後敗れ
こゝ外より此合我りといふ
軍士といふ一族即後あり
うら死ありいれ制といふ
兼頼乃代氏即十郎道誠起信又
とさういふ種余り麻と且熊野
常り池白忠常といふと感
いれ
建武四年正月廿七日
新あり

親應二年十一月二十一日
うら子藏乃代といふと
いふと是と信といふ
同二年奥所田村乃代の山後謀
乃いふ安積郡部台田作河村
矢柄と津久等といふと我
拙つるに大京を自來起信又
をさしに木等物といふ
又和二年六月一日竹城保郷といふ

是を以て

延文二年十一月二十日

康安元年

同二年十月二十一日

貞治二年七月十一日

同二年十月二十一日

貞治二年七月十一日

同二年十月二十一日

貞治二年七月十一日

同六年正月二十日

同六年正月二十日

同六年正月二十日

同六年正月二十日

貞永二年父乃後伏あきらししりりく
以地あつちものものししりり
道号道空みちごう だうくう

重胤しげゆき

治政ちげいのの時とき
天石あまのいし 行方ゆきかた字なづなたたとと以もてて道号みちごう

高胤たかゆき

おお羽はちち 以もてて系けいのの末すえにに行ゆきき

道号大雄みちごう だいう

盛胤もりゆき

大膳だいぜん大支だいいし 以もてて系けいのの末すえにに行ゆきき
平ひら清しみずとと夜よにに合あ戦せんししををりり
標ひら系けい郡ぐんとと取とりり 道号目頭みちごう めくづ

歌胤かゆき

澄すみ波なみちち

約方字を極業と記す

岩城重澄少とて合戦

楢葉郡内宿屋の城本戸乃城

野演此城とせぬ且重澄と共

岩城乃城下種田河より流る

りら重澄と和談しとる下

の城をとりと

伊達領掛甲の城二年岩城

重澄伊達晴宗とお謀城を攻ふ

をひく平降りお陣し合戦

款つわい敗れとる乃ら晴宗

あはしく怒りいふもつて是

とすのろ軍二歳あはれ死す

道号雄山

感流

彈正大弼 以すあまふれり

伊達領 度流河より流る

主及大町桑野 鶴田馬澤成田大枝
 小原茂庭中内杉屋末田真柳湯之村
 赤澤以外騎兵雜兵子領人々ら取
 同以輝系より西系と同以長考務
 少く我難共存よりいりうらた
 ころと々々之二三首所より時
 感亂しまるし書陣也
 同以輝系正系と同以飯山あり我
 勝利ありあり

同以輝系正系と同以飯山あり我
 勝利ありあり
 同以輝系西系と同以小深田あり
 存よりいり軍士よりいりうらた
 之より所より時感亂し
 書陣也
 同以同以新地あり我款と遊新地
 の城下あり
 同以同以石佛約々ありあり

ふ、何、不、勝負、あり

同、以、郎、後、等、輝、宗、と、同、以、越、色、此

宗、不、く、我、未、方、乃、共、敗、水、と、く

同、以、奥、別、垣、相、郡、古、場、小、と、い、く

西、宗、が、郎、境、と、合、我、と、い、き、不

飲、賜、水、と、く

同、以、同、玉、田、村、郡、上、守、津、志、下、守

津、志、を、盤、上、を、い、く、宗、と、合、我

一、を、い、く、い、り、勝、方、あり

同、以、伊、在、お、ろ、乃、境、十、二、所、小、と、い、く

有、過、り、あ、い、を、い、く、水、と、い、く、感、亂、が

二、男、お、馬、首、郡、古、場、澄、亂、う、ら、記、を

こ、乃、丹、宗、小、高、と、い、く、あ、い、と、い、く

天、西、十、一、年、秀、吉、南、東、小、進、發

乃、水、さ、お、別、小、田、原、と、い、く、と、い、く

湯、見、と、い、く、乃、ら、秀、吉、乃、命、と、い、く

乃、ら、く、在、京、乃、水、と、い、く、以、別、の、内、と、い、く

お、い、く、五、百、石、と、い、く、と、い、く

秀吉薨去の事
太刀一腰
長五年

大権現

台漣院

石田三成
征伐乃時

車
改易せらる

同
武利

利胤
書

同
九年

寛永三年十月

台漣院
教

福

同十二年十一月十六日

申村

道号

外

外

外

外

外

利胤

源次郎 大膳亮 領事 亦上 同
長之 手 成 見 乃 城 下 之 兵
用 白 布 者 乃 湯 見 寸
同 以 後 之 信 下 之 教 寸
同 十 六 年

大樽 規 在 寸 心

台 德 院 殿 一 寸 一 寸 一 寸 同 年 十

二月 二 日 宇 左 乃 庄 中 村 乃 城 小 移
居 寸

同 十 九 年 右 坂 陣 一 寸 一 寸
翌 年 湯 陣 一 寸 義 胤 及 村 胤 之
少 寸 一 寸

台 德 院 殿 一 寸 一 寸 奉

之 相 之 年 同 五 年 同 九 年

台 德 院 殿 湯 陣 一 寸 乃 時 信 守

寛 永 二 年 九 月 十 日 中 村 一

としく軍五歳少く死す
道号日璣

戦記

虎の 大膳亮 領とふ所と 同
父はとるやき 僅一七歳を以
お遷がし是とて
寛永六年乙未月廿一日
台渡陰敵とて

將軍家へ 福一 奉てまじふ時ふ
象先二人 申す
同十二年十二月二十九日 陰敵下
一 鞆す

幕乃致 藤了
家乃致 九曜 冠



相馬 さげ

高望 たかね

上総介 つづまのすけ

しづめく平姓をいふ

良将 りやうしやう

上総介

後守 ごまもり

将門

伯父高隆大掾國香とらり
下総國と館と相了郡
新系をいひつゝ平親
承平承中平將軍貞盛受勅
命とらけ同東一
うんととと將門執刀なる持珠と

不事あつてつとす
高原の長儀有と秀と孫と
珠ととれよ東國あまよる孫
つと

将國

小治郎

又國 またくに

小右郎

多別

信右

信長

頼望 よりもち

小右郎

信右

信長

常禰 とね

小右郎

將長 まさなが

小右郎

長望 ながもち

小右郎

益頼 えきより

小右郎

重國 おもくに

信右小右郎

胤國 むすくに

相馬小右郎

師國 しにくに

中務左衛門

師長 しにちか

小右郎

義胤

小次郎

胤継

小次郎

胤治

左衛門尉

胤忠

上野守

胤長

左衛門尉

胤宗

左衛門尉

法石茂林

資胤

上野守

月桂と号す

胤儀

左衛門尉

左衛門尉と号す

胤高いんたか

占野うらの

幸山ゆきやま

胤実いんみ

左衛門尉ざえもんゑい

正安ただやす

酒さけ 延のび

小次郎せうじらう

宝珠ほうしゆ 庵あん

胤廣いんひろ

因幡いんぱん

天植てんしゆ

胤貞いんさだ

小次郎せうじらう 花柱はなはしら

胤晴いんはる

小次郎せうじらう 玉宗たまむね

胤いん 胤いん

小次郎せうじらう

実山みづかみ と号す

治胤 りふ

右近大吏

う山と号す うざん

秀胤 ひでゆき

小治郎

春山と号す はるざん

大権現領地

之を所とす

朝鮮

津市陣のとき治家

肥前名護屋

胤信 ゆき

信濃守

中岩と号す なかつい

天正十七年

大権現より信濃守と号す

盛胤 もりゆき

小治郎

天崇と号す てんすう

政胤 まさひ

小治郎

大坂支那陣 おおさかしなじん 不_レ仕_レ存

貞胤 まこと

小治郎

来

小平次郎

安乃致原馬 やすのぢはらま



胡夷名 あまのな

道半 ちうはん

和国義盛之男胡夷名義秀が末裔 わこくぎせいのおとこあまのなぎしゆのあとこ

ながつと

今川義元よりつと道半ふいふ いまがわぎげんよりつとちうはんふいふ

まゝに胡夷名乃字ともあらわたり まゝにあまのな乃字ともあらわたり

物比奈の字よりつと ものひなのなよりつと

泰冬 ヤマト

熱田忠門 生國駿河 ヤマト

先祖お別 三浦乃人あり泰冬曰 ヤマト

文着書が書子やりふ故に

阿夏と号す

今川氏真 イマカワ

家傳いし イマカワ 今川氏真 イマカワ

とて我の先登 イマカワ 今川氏真 イマカワ

あふせう イマカワ 熱田忠門 イマカワ 三十一歳

泰雄 ヤマト

岩出尉 法名 イマカワ

泰勝 ヤマト

孫右郎 熱田忠門尉 生國駿河 ヤマト

大権現下河原へ身置てまゝ川へ見
奉る氏共下つて人跡別下
物いへく領す下下乃地子二百貫文
奉務わひついでく有領せうのみこ
乃清書出判いす下河原
天正二年

大権現寺別河原下河原
武田勝頼中清合戦乃時内藤
仁吉東首と討捕

同十二年 長久寺合戦下
ひく首級と取す下河原

大権現北清馬と取りのせき別
白湯煮と下河原(清江)
軍用下河原と下河原
同十八年 秀吉小田原下
進發乃時下河原 奉務小田
原下河原と下河原(のり使
ふとく下河原と下河原)

大権現の嚴命げんめいより大津毒おほつなの
なす乃ら 位らじをうけぬり
紀伊い正あ相あ頼ら宮みやよりつる
寛永かんえい十年九月廿五日十七歳しちざいに
紀州きしゅう和歌山わかやまよりとく痛死いたし
法名ほふな目義めぎ

某

次郎じらう左郎さらう

恭成きやうせい

権太尉ごんたう尉ゑう 生玉なまたま回まわあ

大権現おほごんげんよりつるをくまらる

天正てんせい十二年じふにねん長久ながひさ寺てらよりつる

勝かつ頼ら合あ頼ら乃の中なかより恭成十七歳

少すく首くび級ぐいよりつる

名な酒しゆ宿しゆく殿でんよりつる

大津毒おほつなのおと結むす成なりたれぬ

寛永六年六月十九日江戸
をひく病死二十二歳 法名清光

泰澄

江戸市 生國寺新江戸

台徳院殿よりついでに江戸市

大坂合戦よりひく首級を以

てりし時ふ十七歳より

將軍殿より江戸市にまはり

清小性組乃番を以てし

寛永七年六月二十九日江戸

をひく病死二十九歳 法名清湖

泰通

江戸市 生國寺

寛永十年六月十九日江戸

將軍殿より江戸市にまはり

書院殿より江戸市にまはり

十石をいふ

象乃紋布也

朝比奈

● 義直

彦直 生國を以

今川氏より 一 十歳あり

病死 法名玄智

義次

市平 生國同前

大樽現

台浦信殿

受長十九年正月病死

薄卷

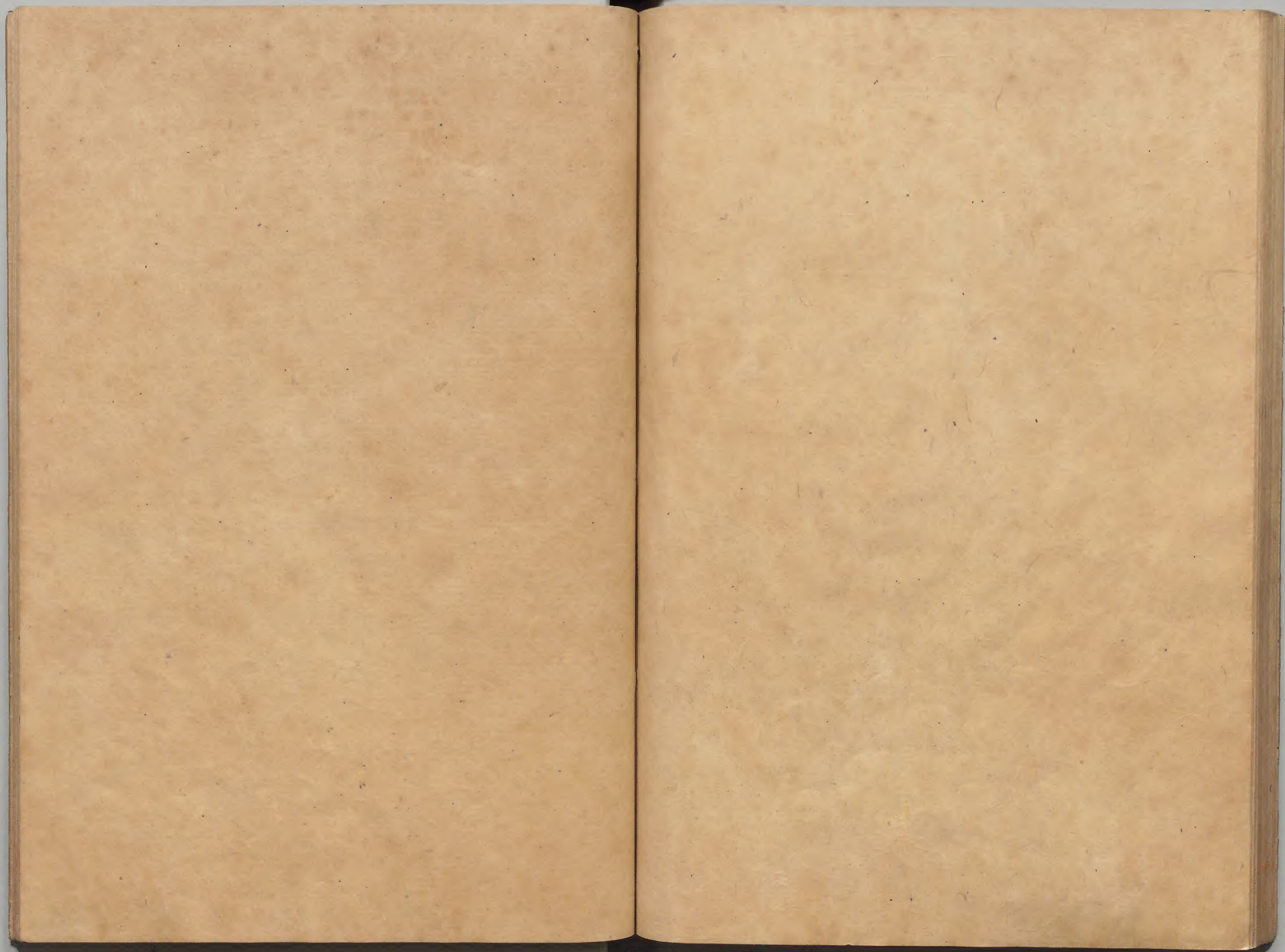
生宅

義春

市平 生國同前

將軍家

家乃級



正次

朝以系内記

越前宰相忠高（忠高）行入未地

行

之利八月十月七日行入病死

法名宗位

正次

一節右記

武別末村（武別末村）行入

朝以系内（朝以系内）行入末村

台徳院殿（台徳院殿）行入

大坂有秀法陣（大坂有秀法陣）行入

乃武別乃内系（乃武別乃内系）行入

行入

寛永九年

將軍家（將軍家）行入

同十年同心二十人とありけり
同十一年四月二十三日歳五十一
しと病死 法名道仁

三重

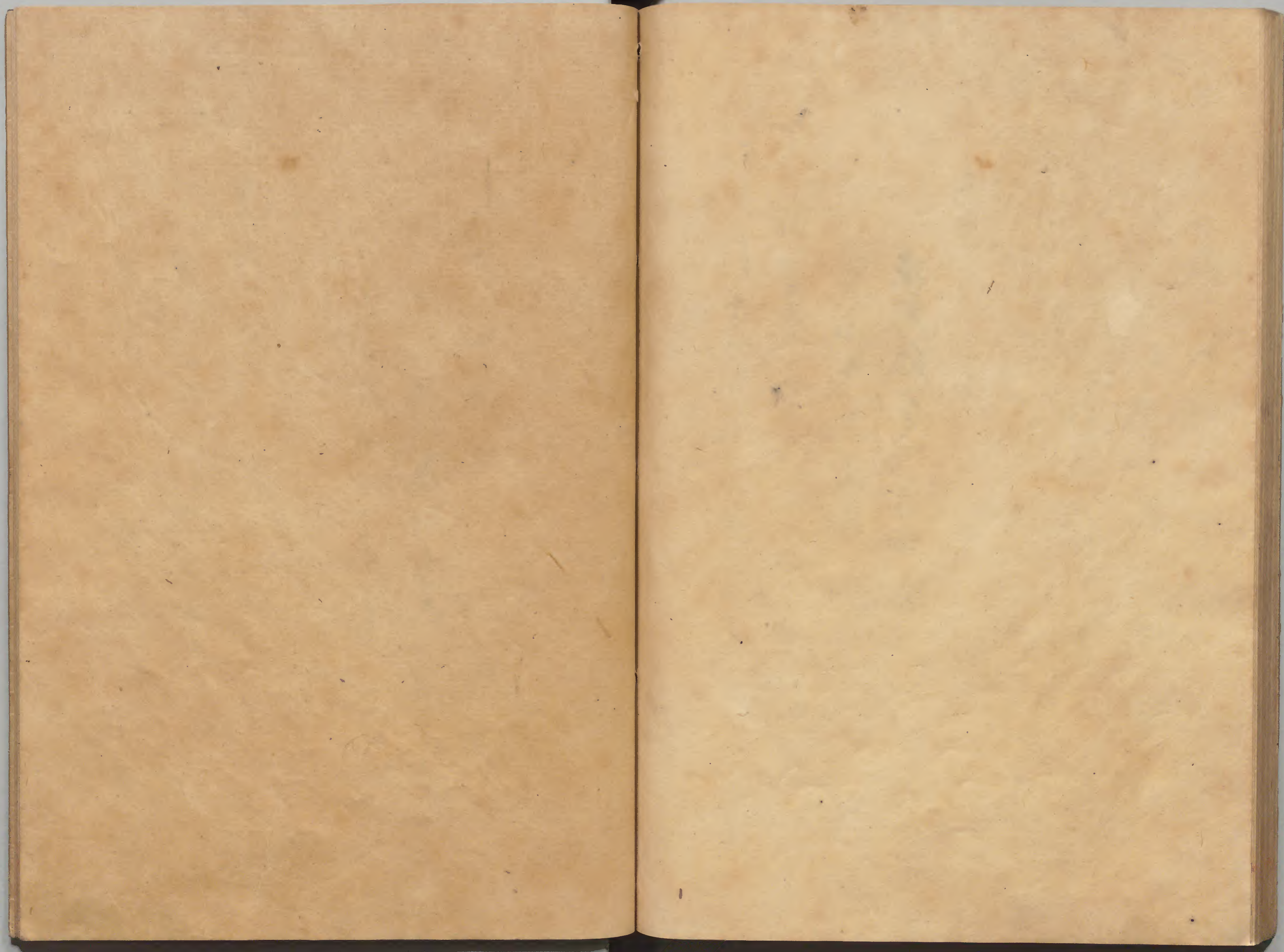
左源右 中里 武隆 江戸

寛永九年五月

將軍家より福 寺に奉りけり

同十一年八月五日 寺に奉りけり

家乃致らば



多見

本田見乃字と
山見乃字と

● 重長

畠山 左衛門 江戶右衛門

杉 綱 一 二 三 四 五

重盛 しげ

江戸右郎

氏重 しげ

本田見小次郎

重方 しげ

江戸右郎次郎

重持 しげ

新右郎

泰重 しげ

右右郎

長門 しげ

重方 しげ

物守氏 しげ
福倉基氏 しげ

しげ

高直

友右郎

康重

三郎 大系亮 後河守

永享十一年二月將軍義教編合
持氏と征伐し、
康重は後河守に

重彦

三郎

重廣

大系亮 後河守

某

又三郎

系

新右衛門

川越合戦より死二十六歳

頼忠

刑部

天正十八年小田原陣の時

死す

元和五年八月病死九十歳

法名興樂

朝忠

橋津守

小田原陣よりき伊豆國下田

死す

安永七年八月病死五十一歳

法名法心

勝五

五郎左衛門尉 若狭守

小田原清陣のきき小田原北城下

阿

大塚現岡東清入玉乃やういせ

おそれ奥州清陣下信守

又祿之冬朝輝陣此時信守

く肥前名後陣下信守

安長五年法州岡原清陣下

あつぐいすきくすいす

大坂友清陣下信守 鉤命下

ふりく石川主殿以下信守

高柳乃城下信守

乃郡代下信守

代下信守

台津信殿下信守

糸川場乃政下信守

不_レ叙_レ也

寛永_レ甲子十二月_レ不_レ病_レ死六十歳
法名宗珠

正史

正水正

大権現_レ不_レ行_レ人_レ生_レ之_レ事_レ也

後_レ不_レ行_レ下_レ不_レ叙_レ也

元和_レ丙子七月_レ病_レ死_レ年_レ一_レ歳

不_レ恒

不_レ郎_レ在_レ衛_レ門_レ尉_レ生_レ至_レ武_レ苑

受_レ又_レ長_レ十_レ三_レ子

台_レ德_レ院_レ殿_レ不_レ福_レ不_レ生_レ之_レ事_レ也

大坂_レ支_レ清_レ陣_レ不_レ行_レ也

不_レ勝

久_レ矣_レ生_レ國_レ同_レ矣

之和子より

台徳院殿より湯ゆ一つ本ほんをくまひ

一いつ十じゅうの歳

同六年涉しやの書しよと

寛永かんえいの年 町まちの世よより

杉すぎ年としの書しよ正ただ久くの年としより

涉しや小こ村むらの書しよををつつと

同四年

台徳院殿より父ちちの書しよ授たまへ給たまはる内うちより

予まより

同八年 台だい命めいととり涉しや前まへ小こ

台だい納のう戸こ乃なりややくくととり

同九年

台徳院殿だいとくゑん費ひ済しよ乃なりり

將軍しやうぐんの書しよより一いつ本ほんをくまひ

同十年大田おほの中ちゆう書しよ資し宗そうの年としより

て涉しや書しよ院ゐん書しよ一いつと

同年 鉤かぎ命めいより一いつ本ほんをくまひ

乃なりがが紙し

同十年 教命しんめいととううののままりりとと

命めい夜やとと若わかききののししののししををゆゆるる事こと

同年どうねん河内かゐ別べつ高たか原はら郡ぐん常つね門かど村むら

ののししとと百ひゃく石しやくととららののししををまますす事こと

ととららののししとと百ひゃく石しやくととららののししををまますす事こと

同十年 杉すぎががせせいいののししををまますす事こと

清きよ目め付つけののししををまますす事こと

家いへ乃なり紋もん亀かめ甲こう





